

4月29日の「みどりの集い」は小雨のスタートとなりましたが、午後には雨が上がり、予想以上に賑わいました。ありがとうございました。

さて、園内の花ですが、八重桜が散り始め、園路をピンク色に染めています。ツツジ類も花が増え、まもなく見頃を迎えます。

★開花情報

ハンカチノキ オオギリ科ダヴィデア属※(写真1)

まるで2枚のハンカチをぶら下げているように見える珍しい樹木で、自生地は中国大陸西南部の標高1000~2000mの高地に限られます。1869年にフランス人宣教師のアルマン・ダヴィッド氏が発見したため、ダヴィデア属と名付けられました。2枚のハンカチは総苞片で、球形の花序を包みます。また、白いハトが翼を広げた様に見えるため、ハトノキとも呼ばれます。(※ミズキ科やダヴィデア科に分類する考えもあります。)

場所：管理事務所前、見本園

セイヨウバクチノキ(西洋博打木)バラ科サクラ属(バクチノキ亜属)(写真2左)

ヨーロッパ~西アジア原産の常緑低木で、生け垣や公園樹などに利用されます。名前は日本暖地産のバクチノキに似ていることに由来します。緑化センターでは過去数年間、花が咲きませんでした。今年は開花しました。枝先に花序を伸ばし、芳香のある白花を咲かせます。場所：薬草園横生垣

ウワミズザクラ(上溝桜)バラ科サクラ属(ウワミズザクラ亜属)(写真2右)

花のつき方が前述のセイヨウバクチノキと同様に、枝先に長さ8cm程の総状花序をつけます。花の直径は6~8mmで、芳香があります。輪切りの材に溝を彫って亀甲占いで利用していました。このことから上溝桜(ウワミズザクラ)と呼ばれていたのが、ウワミズザクラに転訛したといわれています。場所：レストハウス奥谷沿い

フジ(藤)マメ科フジ属(写真3上)

藤棚などによく植えられているフジで、摂津国野田(現在の大阪市西成区付近)の藤之宮に名所があったことに因み、ノダフジとも呼ばれます。山野に自生するヤマフジとは幹の巻き方が逆になります。フジは上から見て時計回りに巻き上がります。花は普通、紫色で芳香があり、花序の長さはヤマフジより長く20~30cmです。芳香の強いものや、花色の異なる品種もあります。場所：ファミリー広場、多目的広場、出合の広場他

八重桜の開花状況

兼六園菊桜、佐野菊桜、菊桜、関山、紅普賢、松月などはまだ見られます。

その他開花情報

木本…ホオノキ、ハイノキ、オオデマリ、シロヤマブキ、キリシマツツジ(写真3左下)、キレンゲツツジ、キシツツジ、ヒラドツツジ、セイヨウシャクナゲ、オウバイ、ハナミズキ(写真3右下)、ハナズオウ、シナヒイラギ 他

草本…エヒメアヤメ、オキナグサ、レンテンローズ(ハルサキクリスマスローズ)、スマイレ、キランソウ、マツバウンラン 他





写真1 ハンカチノキ (管理事務所前) H26.5.1



写真2左 セイヨウバクチノキ (苗畑横) H26.5.1



写真2右 ウワミズザクラ (薬草園下谷沿い) H26.5.1



写真3上 フジ (ファミリー広場) H26.5.1



写真3左下 キリシマツツジ (管理事務所横三叉路) H26.5.1



写真3右下 ハナミズキ (見本園) H26.5.1